

Everything You Treasure— For a World Free From Nuclear Weapons

核兵器なき 世界への連帯 —勇気と希望の選択—

尾張旭展

「核兵器なき世界への連帯」展(英語版)より
展示来場者からの反響

ティルマン・ラフICAN共同代表(当時)

この展示は、核兵器の問題を考える上で、極めて効果的なものであり、今回のオスロ会議を契機に、今後ICANとSGIで国際的に展開していきたいと念願しております。

ICAN主催の市民社会フォーラムで開催された展示開幕式
でテープカットを行うティルマン・ラフ共同代表(右端)
(2013年3月)

オスロ



コーネル・フェルタNPT再検討会議 第2回準備委員会議長 (ルーマニア外務省政治局長・大使)



この展示の多角的なアプローチは、政府代表、市民社会、学術界をはじめ全ての人々が、核兵器がもたらす諸問題の関連性を見いだすために重要な示唆を提供しています。それは次世代の人々が生きる政治環境づくりにとっても、大きな意味をもつと思います。

ジュネーブ

ジュネーブ国連欧州本部での展示開幕式(NPT再検討会議第2回準備委員会関連行事として開催)でスピーチするフェルタ議長(2013年4月)

マセド・ソアレス OPANAL(ラテンアメリカおよびカリブ海地域核兵器禁止条約機構)事務局長

事実に基づき、過去の歴史を多様な角度から振り返る有益なものです。この展示は各国の代表者に新しいアイデアを提供し、彼らの会議での説明にも、国際世論にも影響を与えるでしょう。核兵器廃絶というシンプルな考え方ですが、最も重要な方途へと導くものです。

核兵器の人的影響に関する第2回国際会議の関連行事として開催された展示開幕式でテープカットを行うソアレス事務局長(左端)(2014年2月)

メキシコ



核兵器廃絶へ向けての 民衆行動の10年

民衆行動の10年とは？

2006年8月、池田大作SGI会長は、核兵器廃絶に向けた民衆の力を結集する目的で、「核兵器廃絶へ向けての世界の民衆行動の10年」を国連で制定するよう提言しました。

この提言を受け、SGIは2007年9月、「核兵器廃絶への民衆行動の10年」の国際キャンペーンを開始しました。

核兵器禁止条約が採択

2017年、多国間条約により核兵器を禁止するための史上初めての交渉が、ニューヨークの国連本部で開催。7月7日に「核兵器禁止条約」が採択され、9月20日に署名開放されました。

条約の普遍化の取り組み

池田SGI会長は、2018年の「SGIの日」記念提言で、SGIとして、核兵器禁止条約の早期発効と普遍化の促進を目指し、「核兵器廃絶への民衆行動の10年」の第2期をと呼びかけ、SGIは、市民社会の連帯を原動力に、条約の普遍性を高めていく取り組みを進めています。

SGIとICAN

2007年にICANが発足して以来、SGIはその国際パートナーとして、共通の目的である核兵器廃絶に向け協働してきました。ICANは、核兵器禁止条約の実現に貢献したことが評価され、2017年のノーベル平和賞を受賞しました。